

## 「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

### 第 89 回

『「コロナ時代を生きる」～ 「生物学と人間学」の復習 ～』

2021年12月25日(土)クリスマスの日、健康医療開発機構主催のZOOM Webinar 講演【第58回健康医療ネットワークセミナー/3回シリーズ「コロナ禍時代 がん患者とともに」第3回目】(東京メディカクラブ;東京都文京区本郷)に赴いた。《健康医療ネットワークセミナー「コロナ禍時代 がん患者と共に」》3回シリーズ内容は、下記の如く紹介されていた。

【第1回】2021年10月9日(土)

「がん免疫療法時代の問題点」上田龍三 先生「がん登録からわかること」、若尾文彦 先生(国立がん研究センター)

【第2回】2021年11月20日(土)

「コロナとがん」中川恵一 先生(東京大学医学部附属病院放射線科 総合放射線腫瘍学講座 特任教授)

【第3回】2021年12月25日(土)

「コロナ時代における がん哲学」樋野興夫 先生(順天堂大学 名誉教授、新渡戸稲造記念センター 長、恵泉女学園 理事長)

司会進行：上田龍三 先生(愛知医科大学腫瘍免疫寄附講座 教授、NPO 健康医療開発機構 理事)

シリーズ全体の総合司会：谷憲三朗 先生(東京大学定量生命科学研究所 教授、NPO 健康医療開発機構 理事)

筆者の講演概要は下記であった。

新渡戸稲造(1862-1933)の言葉に「人生に逆境も順境もない」があります。自分のことばかり考えると、悩みや苦しみが立ちはだかつて逆境になる。でも、自分よりも困った人に手を差し伸べようとするれば、自らの役割が生まれ、逆境はむしろ順境になるのです。人生に期待するから失望するのであって、人生から期待されるようになればいい。これが、がん病理学者としての原点で、まさに「コロナ時代における がん哲学」ではないでしょうか！

### 「コロナ時代を生きる5カ条」

1. 自分の力が人に役立つと思うときは進んでやれ
2. 人の欠点を指摘する要はない。人のあやまちは語るには足らぬ
3. 理由があっても腹を立てぬこそ非凡の人
4. 感謝は優しき声に現れる
5. 心がけにより逆境も順境とされる

『「がん相談」と「がん哲学外来」の違い』についての質問もあり、『「病気（がん）も単なる個性である」社会構築、「個性が引き出されると 人間は心に花が咲く」、「病気と病人の違い」』をさりげなく語った（画像 1, 2）。「患者は受験生のようなものです」との患者さんの言葉は大いに印象に残った。早速、「本日は素晴らしい講演をしていただき誠にありがとうございます。」「昨日は大変感激的なお話を頂戴し誠にありがとうございました。先生のご活動のさらなるご発展を心より願っております。」との心温まる励ましのメールを頂いた。ただただ感謝である。

### 「医師の2つの使命」

- (1) 「学問的、科学的な責任」で、病気を診断・治療するー>学者的な面
- (2) 「人間的な責任」で、手をさしのべるー>患者と温かい人間としての関係

今回は、「がん哲学＝生物学の法則と人間学の法則」を復習する貴重な時ともなった。

